

ニセコ地区における中長期滞在型観光客のモビリティに関する研究(2)

ーモビリティサービスの基本構想ー

プロジェクト代表者: 平沢 尚毅

■ プロジェクト目的

本教育プロジェクトでは、観光客の要求を満たし、新たな観光地における体験を促進するための、移動サービスのあり方を構想する方法論を体系的に学ぶことを目的としています。今年度は、昨年、調査した観光客行動情報に基づいて、現行モビリティサービスの課題を明確にすることを目的としています。

■ 実施方法

(1) ニセコ地区の観光客モデルの構築

昨年得られた観光客の行動情報を基に、典型的な観光客像をモデル化(ペルソナと呼ばれる)します。

(2) 観光客行動シナリオの作成

ペルソナごとに、典型的な行動シナリオを数パターン作成します。

(3) 観光客シナリオを基にしたモビリティサービス評価

まず、観光地にあるモビリティサービスを調査します。そのサービスを作成したシナリオに基づいて利用し、課題を抽出してゆきます。学生は、気づいた課題を持ち寄り、ディスカッションを通して、課題整理をしてゆきます。

温泉志向型

温泉に入浴
ホテルに宿泊
TripAdvisorの閲覧

生活重視型

食料品の購入
コンドミニアムに宿泊
宿泊施設のWEBサイトの閲覧

観光重視型

観光地への旅行
ホテル・コンドミニアムに宿泊
Japan-guide.comの閲覧



■ 成果

(1) 観光客モデルの構築

ペルソナ手法を用いて、わかりやすく的確な観光客像を作ることができました。

(2) 観光客に基づいたサービス評価法の習得

人間中心設計の手法を応用して、観光サービスを評価する手法を体系化できました。これによって、現行のモビリティサービスの課題を明らかにすることができました。特に、日常生活行動を支援するモビリティサービスが未整備であることが明らかになりました。

(3) 外国人を対象としてフィールドワークの実施

学生は、ニセコ地区を対象とすることで、国内ではかなり困難な外国人をターゲットにしたフィールドワークを実施することができました。その結果、様々な形でコミュニケーションをとる術を習得することができました。